

テレワーク施設を 米首席領事が視察

恵那

在名古屋米国領事館

のステイブン・G・コバチーチ首席領事が、恵那市明智町のサテライトオフィス体験施設「SOZO明智」を視察し、利用するドローンセキュリティ研究会などの説明を受けた。

SOZO明智は、情報通信技術を活用して地方でも都市部と変わらない環境で仕事ができる「テレワーク」の推進に向け、市が今年一月に開設。コバチー氏は、地方活性化や女性活躍などへのテレ

ワークの可能性を探り、小型無人機「ドローン」の研究活動も見るため訪れた。

研究会座長の大久保隆夫情報セキュリティ



大久保教授（左端）から説明を聞くコバチーチ米首席領事（右）22日、恵那市明智町で

大学院大教授らは、ドローンと航空機の衝突防止のため、管制官やパイロットがドローンが飛んでいることを認識できる技術を研究しており、落下時に音と光で周囲に警告する装置を開発したと説明。

「恵那市はドローンを飛ばすことが可能な地域が広い」と述べ、国際的な統一システムづくりへ協力を求めた。

小坂喬峰市長は「人口や若者が減少する中で、新たな働く場づくりにつなげたい」と施設の意義を説いた。

コバチー氏は「恵那市はいろいろと魅力があり、働く場を誘致するのにいいのでは」

と感想を話した。

（生田貴士）